

メールマガジン 2022年8月

主の聖名を賛美いたします。

つい先日までの極暑とは打って変わり朝晩は肌寒さを感じ、落ち葉も目にするようになって季節は秋へと向かい始めているこの頃です。多くの被害をもたらした熱波はもう随分と昔のような感じすらします。皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

今月は通常とは違った日々を過ごしています。日本の教会に仕えておられるH牧師先生が、サバティカル(長期間勤務者に与えられる長期休暇)を頂いて我が家に滞在されており、ご一緒に聖書を読み祈りをもって一日を始め、先生を通して多くの気づきが与えられて、脳が活性化されています。尚、8月14日、28日に、お証しと共に主日礼拝説教のご奉仕を担ってくださり、教会の皆様と共に新たな恵みを頂いております。

年に一度、夏の恒例となっている「ヨーロッパ・キリスト者の集い」(欧州に存在している日本語による礼拝を献げている教会や、集会をもっておられるグループが一同に集まる会)に、H先生と共に参加しました。今年のテーマは、「キリスト者の自由」(ガラテヤ書5章13節)で、多角的な視点をもって色々なことを思い巡らすことができました。私は最終日、7日の主日礼拝の説教を担わせて頂き、キリスト者としての自由とは、イエス様に繋がりに続けることによつてのみ与えられるもので、頂いた自由の用い方は、神の愛をもって神と人に仕えることであることを改めて教えられました。集い全体の内容はこちらのリンク➡ <https://www.europetsudoj.net> からご覧になれます。よろしかったらどうぞ!!

キリスト者の集いは、南ドイツ・シュトゥットガルト郊外のショーンベックにあるキリスト教の施設で開催されましたが、その足で更に南下して、南ドイツ・オーバーアマガウにて、10年に一度上演されている「キリスト受難劇」(Passionsspiele)を観て参りました。ミュンヘン日本語教会に遣わされている牧師先生のお友だち(ドイツ人)が、会場の近くの村に住んでおられるので泊めて頂き、一緒に日本食を作ったり楽しい時を過ごし、新たな神の家族の輪が広がりました。本来は2020年の上演予定でしたが、コロナ禍のために2年延期となり、今年やっと開催されました。役者は全員が村人ですが、延期された2年の歳月は、モチベーションを保つことは容易ではなかったとのこと。その苦悩を思うと幕が開いた瞬間、胸がいっぱいになりました。イエス様のご受難のお苦しみ、裏切ったユダの苦悩、群衆の叫び声等、その臨場感で聖書の世界に吸い込まれていきました。この時にドイツに在住しているが故に観ることができ感謝な思いでいっぱいです。

また、8月13日には、教会をお借りしているボンヘッファー教会を初め、ケルン市内のドイツ州福音主義教会の合同洗礼式が行われ、役員の方と日本からいらしているH先生と共に参加しました。ライン川湖畔に約3000人集まり、その内200名の子どもたちが参加しました。赤ちゃんから中高生位の子どもたちが一斉に洗礼を受ける姿はとても感動的で励まされました。

今月はこのように盛沢山の貴重な経験をさせて頂きながら、元気で幸いな時を過ごさせて頂いております。日本ではまだまだ残暑厳しい日々を過ごされていると思います。夏のお疲れがでませんように主のお支えをお祈り申しあげます。



ライン川湖畔での合同洗礼式

牧師が自分たちの教会の子どもたちのもとに出向いて洗礼を授けます。涙ぐむご両親の姿も印象的でした。



宿泊させて頂いたBarbaraさんのお宅の前。
会場まで車で30分ほど山に囲まれたとても閑静な村